



みどりの風

平成25年7月1日発行
校報 第499号
〔みどりの風 第42号〕
練馬区立関町北小学校

D J ポリス

- 心の琴線にふれる言葉を -

校長 大野 泰弘

今日までブラジルを舞台にコンフェデレーション杯が行われています。今日は決勝戦。開催国のブラジルか、前回のワールド・カップ優勝国のスペインか、いずれの国が勝利したのでしょうか。

さて、時は遡りますが、6月4日のこと。オーストラリアチームを招き、次回のワールド・カップ ブラジル大会への出場権をかけたサッカーの試合が国立競技場で繰り広げられました。その結果は、ご存じのように、日本が本田圭佑選手の劇的なペナルティ・キックにより引き分けに持ち込み、見事に本大会への切符を手に入れました。

その日の夜、試合結果によっては、サポーターが渋谷駅のスクランブル交差点周辺に集結することが懸念されていました。警備当局は、かなりの警備体制を敷いていましたが、そこに、当日の夜、インターネット上で「DJポリス」と名付けられた一人の機動隊員がいました。

その隊員がしたこと。それは、多くのマスコミでも報道されていましたが、彼は、警備車両の上から拡声器を通して、威圧的、命令的な言葉を語るのではなく、ユーモアにあふれる、優しい言葉と語り口で群衆を誘導したのです。彼の語った言葉は、例えば、次のようなものでした。

「目の前にいる怖い顔をしたお巡りさんは、好きでこういうことをしているわけではありません。心の中では、日本代表のワールド・カップ出場を喜んでいるのです。皆さんのチームメイトなんです。どうかチームメイトの言うことを聞いてください。お願いします。こんないい日にお巡りさんは怒りたくはありません。お互い気持ちよく、今日という日をお祝いできるよう、ルールとマナーを守りましょう。」

「日本代表のユニフォームを着ているサポーターの皆さんは、12番目の選手です。どうか、今日の日本代表のワールドカップ出場を、交通ルール、マナーを守って、フェアプレーで喜び合ってください。けがをすればW杯出場も後味の悪いものになってしまいます。チームワークよく、駅の方へ進んでください。」

「(交差点を走り抜けようとする若者や行く手を阻まれた車に寄りかかる若者に)そういう行動はイエローカードです。車を通してください。ドライバーの中にもサポーターはいます。日本代表はフェアプレーで有名です。皆さんもルールとマナーを守ってください。」

「(お巡りさんコールが上がると)声援は嬉しいですが、皆さんが歩道に上がってくれる方が嬉しいです。どうか歩道に上がってください。」

「(最後に)皆さん、明日も仕事です。そろそろ帰りましょう。」

マスコミのその後の取材の中で私が感銘を受けたのは、彼が、「その場の状況を見て、自ら判断し、適切な言葉を選び、語った」ということです。彼が、機動隊警備広報競技会優勝の実績の持ち主であること、その誘導により一人のけが人も逮捕者も出さなかったことで警視総監賞を贈られたということ、これらも勿論素晴らしいことですが、それ以上に、警備広報の仕事をするにあたって、「人の心に響く、その琴線にふれる言葉を大切にしている」という一言にとっても感じ入りました。

この隊員は、言葉をもって、理よりも情へ、命令よりも共感を大切にしながら群衆に訴えました。そこには、当意即妙の才能が感じられるだけでなく、臨機応変に人の心に伝わる言葉を使える人、心の琴線にふれる言葉の使い手としての姿があるように思います。単なる美辞麗句、指示命令ではなく、その人となりや自らの思いのすべてを言葉を通して豊かに表現しようとする、その姿勢に学ぶことが多くあるのではないのでしょうか。

さて、本校では、今月、個人面談や夏休み前の保護者会が開かれます。担任からの言葉が、保護者の皆様の心の琴線にふれ、それが、夏休みの子どもたちが自らのめあてをもち、夏休みならではの生活を創り上げるにあたっての心温まるアドバイスにつながっていくことで、子どもたちの今夏の生活が有意義なものになることを願っています。

まさに、言葉は響く、言葉は心、言葉は行動、言葉は先生であると思います。